

各部隊の記念日に社命により参加して奇異に感ずることが間々ある。「防衛庁副長官」や「長官政務官」が「観閲官」と称して乗り込んできて方面総監や師団長の立場を貶めていることだ。



(第5師団記念日)

確かに自衛隊法施行規則や礼式に関する訓令においては、副長官や政務官が就任後初めて部隊等を訪問する場合には観閲式を行うことが出来ると定められており(礼式訓令 58 条)、また副長官等が葬送式を除く儀式に参列する場合は荣誉礼を受けることが出来るとも定められており、この限りにおいて違法性はない。

地元選出の副長官や政務官にとって見れば、師団等の隊員の殆どが集合して地域住民も多数見物に訪れる師団等の記念日の機会を捉えて観閲官として最高の待遇を受け隊員や国民に対して所信を表明し得るといふのは又とない機会であることは疑いがない。それ故に無節操に乗り込んでくるのだろう。

そもそも師団等の記念日とは何であろうか。一年に一回、師団長等が師団等の全隊員を集合させて、隊員諸官に対し、師団長の所信を述べ、部隊・隊員の向かうべき方向を示すと言う極めて意義あるものである。一方、地域住民に対しては、部隊に対する平素の支援や協力に感謝の念を捧げ、部隊の真姿を知って貰うという極めて重要な儀式である。

隊員にとって見れば、いざという場合にはこの師団長の下にあって一命を投げうってでも所命完遂をするという気概を再確認する場でもある。即ち、師団等の記念日は師団長と全隊員の絆が強固であることを確認し、更にそれを高めようという極めて神聖なものである。従って、執行者としてその式辞には思いの丈を精一杯込めているのである。

然るに、隊員や部隊を直接指揮する権限を持たぬ者が観閲官然としてふんぞり返っているのは師団長の立場がないではないか。昨日の北東北の師団の記念日も正にそうであった。さる先輩曰く、“師団長が小さかったな。記念日をもう一度やったらどうだろうか”と。小生も思いはまったく同じだ。

未だかつて、防衛庁長官が部隊の記念日に乗り込んできて師団長等のお株を奪ったという事例があったであろうか。少なくとも小生の知る限りにおいてはその様な不埒な事例はない。長官に任命される程の実績のある政治家は、このような姑息な手段を弄さずとも選挙には強いのだろう。逆に副長官や政務官だからこそ藁にも縋る気持ちで甘言に乗るのだろう。誰が甘言を弄しているのかは知らないが・・・。

この悪しき前例を残したのは、多分今年の道北師団の記念日からであろう。(誰の入れ知恵かは知れないが、発想した御本人は中々の名案だと微くそ笑み、上司の覚えも目出度い筈と思込んでいよう。こう言う輩を君側の奸と言うのかも知れない。) 今年の某師団の記念日には小生も参加していたが、何れにしろ、副長官になって得意然、意気揚々と隊員や地域住民の前に登場して師団長と隊員の神聖な場を汚した。最もこの時はかの政治屋の個人属性であろうと思っていたが、左にあらず、これに味を占めたのか、同様な事例が

頻々と起きているようだ。誰しもが正常な判断力を失っている。諫言すべき人が居なくなったのは寂しい。

言うまでもなく、副長官等の初度視察と記念日行事は明確に峻別すべきである。

このような事をして返って部隊の反発を受けるということが解らないほどの愚昧な連中なのだろう。

副長官や政務官等の為すべきは、もっと高い国家次元での政策決定であるべきか。その任を果たすことによってしか選挙民の信任を得られない。それを履き違えている。